

フィールドワーク「足利学校と田中正造に学ぶ旅」

2014年9月27日（土）

当日は晴天、25名（含講師・スタッフ）が参加した。今回も歴教協（群馬県歴史教育者協議会）との共催での実施。当日の解説はフォーラムから内藤真治講師、足利では柴崎正人さん（足利市教育委員会文化課）、その他の場所では現地の解説者の丁寧な説明で充実したフィールドワークとなった。

足利では柴崎正人さんが駐車場まで迎えに来てくれて、足利学校から鑿阿寺まで歩きながら解説をしていただいた。



②足利まちなか遊学館（足利市通1丁目）

古くから「織物まち」として栄えてきた足利市を紹介する施設。大きな八丁撚糸機や組物機械などを見学した。お土産に参加者全員が組ひもをいただいた。

①足利学校（足利市昌平町）

足利学校でもらったパンフレットに、「日本最古の学校」、「国指定史跡」、「めざせ！世界遺産」と書かれている。ここも世界遺産を目指している。

創建については諸説あり、足利義兼が一族の子弟教育のために創建したとする説が有力だが、歴史が明らかになるのは、15世紀に関東管領上杉憲実が、書籍を寄進し、席主（学長）制度を設けるなどして再興したころから。

天文18（1549）年にはフランシスコ＝ザビエルにより「最も有名な坂東の大学」と評され、全国から多くの学徒が参集した。

近年は孔子廟（1668年創建）・三門を残すだけだったが、学術調査をもとに1990年、方丈・庫裏・書院・庭園や周囲の堀・土塁などを復原した。

③鑿阿寺（ばんなじ 足利市家富町）

国指定史跡「足利氏宅跡」でもある。源義家の子、義国とその子義康（足利氏を名乗る）の二代にわたって造営された足利氏の居館跡である。鑿阿寺は義康の子、義兼が居館内に持仏堂を構えたことに始まる。大日如来を本尊とするため「足利の大日さま」とも言われる。本堂は義兼の創建だが火災で焼失、その後再建された。禅宗様式で鎌倉時代の代表的建造物で、昨年、国宝に指定された。

④田中正造旧宅と墓所（佐野市小中町）

田中正造は1841（天保12）年、小中村の名主の家に生まれた。県議会議員、議長を経て、1890（明治23）年、衆議院議員に当選（立憲改進黨）。足尾鉍毒に苦しむ被害民救済のため奮闘したが、1901（明治34）年、議員を辞職し、明治天皇に直訴。その後、谷中村遊水池計画に反対して谷中村に住んだ。

1913（大正2）年死去、73歳。

妻カツと一緒に過ごした時間は少なく、妻の名前を忘れてしまったという逸話がある。

旧宅には隠居所・母屋・土蔵などが残っている。栃木県指定史跡。

最晩年、正造は家屋を含む全財産を小中村に寄付、住民は「小中村農教倶楽部」を設立して旧宅の維持管理に当たっている。

道路を隔てた南側に正造の墓所がある。正造没後、遺骨はゆかりの地に分骨されたが、ここはその一つ。

⑤佐野市郷土博物館（佐野市大橋町）

佐野市の原始から近現代までが常設展示されているが、私たちは田中正造展示室だけに入った。

館長さんが解説。今年の5月21日に天皇・皇后夫妻が来館し、田中正造の直訴状の実物などを見ていったという（通常展示は複製）。直訴状は幸徳秋水が書いたものを、正造が加筆訂正して印を押したもの。天皇は「この赤いのが訂正だね」などと話したという。天皇宛ての届かなかった直訴状が113年の時を経て、ついに宛先に届いたことになる。

正造が亡くなったのは1913年（大正2年）だから101年前のことになる。亡くなった時、



枕辺に残された遺品は菅笠と合切袋（信玄袋）で、袋の中には河川調査の原稿と新約聖書、鼻紙数枚、採取した川海苔、小石三個、帝国憲法とマタイ伝の合本、日記三冊が納められていた。これが正造が残した全財産だった。これらも展示されていて印象に残った。

⑥NPO 法人足尾鉍毒事件田中正造記念館

（館林市大手町）

2006年に保育園の空き室を利用して開館したが、昨年11月、館林市役所近くの現在地に移転した。ビデオコーナー、パネルコーナー、書籍・資料コーナーがある。短時間だったが、パネルコーナーで足尾鉍毒の歴史と田中正造について熱心に説明をしていただいた。

【文責 設楽春樹】



佐野市郷土博物館 田中正造の銅像前で